

氏名 塚本 恵未 法科大学院等の在籍年次 2年次

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：One Asia Lawyers シンガポールオフィス

滞在期間：2023年8月25日～9月14日

(インターン期間は8月26日～9月13日)

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所の構成等について

事務所内には複数のチームがあり、日本人のインターン生は、日本法弁護士の先生が多くいらっしゃるチームに配属されます。そのような事情から、私の場合、別チームのシンガポール法弁護士の先生方とはあまり交流はありませんでした（同時期にいたシンガポール人のインターン生とは一緒に食事に行くなどして交流を深めました）。

勤務時間について、厳格には定まっていないようです。私は9：00～18：00（昼休憩1時間を含む）を目安に勤務していました。インターンシップ1週目は、要領が掴めず、退勤が18：00を大幅に過ぎることが多かったのですが、徐々に仕事にも慣れていき、2・3週目には18：00頃に帰られるようになりました。なお、土日は休みです。

インターンシップの内容

非常に様々な業務を経験させていただきました。具体的には、シンガポール法を含む外国法のリサーチ、クライアントからいただいた質問に対する回答書の草案作成、セミナー資料の和訳、裁判傍聴、クライアントとの会議や勉強会への参加等をさせていただきました。私は事前に、弁護士の先生に対して、企業法務を扱いたいと希望を伝えていたので、先生方からいただく案件は企業法務に関するものばかりでした。また、裁判傍聴は、事務所からインターン生に対して必ず提供されているプログラムではありませんが、私はどうしても裁判傍聴がしたく先生にその旨を伝えたところ、すぐに調整をしてくださいました。

3 宿舎及びその他の生活環境について

宿泊施設について

私は、事務所から徒歩15分ほどの、（女性専用部屋のある）クラークキー駅近くのカプセルホテルに宿泊しました。予約はBooking.comにて行いました。

宿泊施設の予約ですが、渡航が決まったら（私の場合、7月10日に渡航可否の連絡がありました）、可能な限り早めに行くことをおすすめします。動き出しが遅いと、自分の希望に合った宿泊施設の確保が難しくなります。また、宿泊施設の検討・予約には思いのほか時間がかかります。これらの作業を、迫りくる期末テストの勉強と並行しながら行うのは、精神衛生上本当によろしくありません。

食事について

事務所近くのラオパサ、事務所が入っているビル（Hong Leong Building）の地下のフードコートで食べるが多かったです。

ちなみに、シンガポールでは、フードコートなどで席を確保する際、日本と同様に机に物を置いておくと「その席は使います」という意思表示になります（私が置いた物を捕られることは、1度もなかったです）。

交通機関について

MRT（地下鉄）を利用することが多かったです。MRTでは行けない場所に行く際に、バスやタクシーを利用したこともあります。タクシーを利用する際には、安全上の観点等から、事前にアプリ（GrabやZigなど）で配車を行うべきだと思います。

休日の過ごし方について

専ら観光をしました。私のおすすめの観光地は、シンガポール動物園です。日本では観ることができないであろう動物を、かなり間近で観ることができます。入園料は、お高めなのですが、値段以上の体験をすることができたと個人的には思っています。

4 出発に向けた準備等について

パスポートの取得について

航空券の取得等を行うにはパスポートが必須であり、パスポートが無ければ、出発に向けた準備が進みません。パスポートを持っていない場合、渡航が決まれば直ちに申請をする必要があります。

航空券の取得について

私は、7月下旬頃（パスポートを取得してすぐに）スカイチケットというサイトから航空券を購入しました。往路復路ともに、関西国際空港—チャンギ空港の直行便です。

通信手段について

シンガポールの手通信キャリア会社の1つである「M1」の、プリペイドSIM（30日間150GB利用可能で、約2400円）を使用しました。購入は日本で行い、SIMの受取りはチャンギ空港で行いました。チャンギ空港での受取場所が分からず、空港内を彷徨いました（結局、受取場所は、税関を出てすぐの所がありました）。

外貨両替について

シンガポールではキャッシュレス決済が主流です。私は、インターンシップ期間中はあまり現金を使わず、VISAのタッチ決済で商品を購入していました。が、念のため渡航前に、数万円分ほどシンガポールドルに交換しておくことと安心です。私の渡航時のレートは、1SGD=110円ほどでした。シンガポールでは、場所によって、50ドル札や100ドル札が利用できない場合もあるので（限定的ですが）、可能であれば小さめの額の紙幣（10ドル札など）も持っておくことをおすすめします。

5 インターンシップに要した費用

正確に記録していたわけではないため、おおよその数字となります。

- ・航空券：9万円（大学からの補助があります）
- ・宿泊費：15万円
- ・食費：3万円
- ・観光費：2万円
- ・交通費：1万円
- ・雑費：2万円

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

過去のレポートで先輩方も仰っていたことですが、もし、このインターンシップに興味があるのなら、応募してみることを強く勧めます。海外の法律事務所でインターンシップをするという経験は通常得られるものではありません。また、日本の法律事務所が提供しているサマクラとは異なり期間も長く、進行中の案件に触れられるため、よりリアルに業務を経験できると思います。

インターンシップ期間中、いただいたお仕事に全力で取り組むことはもちろん大切なことなのですが、先生方にやってみたい案件などを伝えてみると、希望が叶うことがあるかもしれません。せっかくシンガポールまで来てインターンシップをするわけなので、受け身ではなく積極的に動き、得られるものは得て帰りたいものです。

シンガポール滞在中、まとまった勉強時間を確保することは難しいです。そこで、（特に2L生で在学中受験を考えておられる方は）渡航前に長時間勉強するようにして、勉強貯金をつくっておいていただきたいです。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

様々な業務を経験させていただき、自らが弁護士となった際に取り組みたい業務分野を再認識、また新たに発見することができました。今のところ、いつか海外で働きたいという思いもあり、海外で働く日本人弁護士の姿を間近で見ることができたことも、私にとっては大きな収穫です。自身の目指す弁護士像は鮮明になり、帰国後、勉強に対するモチベーションは格段に増しました。

また、様々な民族・文化が共存するシンガポールで3週間過ごしたことで、日本は、似たような属性を持つ人々が集まる国であることを強く実感しました。滞在期間中、日本で当たり前だと思っていたことが崩れ去っていくような経験もたくさんし、自分が思っている以上に日本の価値観に染まっていることにも気づきました。

さらに、イレギュラーなことが生じても、何とか対応する能力も磨かれたと感じています。滞在期間中、予想もしないようなことが数々発生しました（帰路、手荷物が大きすぎたため空港の係員の方に怪しまれ、1人だけ別の場所に連れて行かれたときは、本当に青ざめました）。頼れるのは自分だけ、状況を打破できるのも自分だけであり、必死に対応しました。これらの経験を通じ得た力は、目先の司法試験でも、弁護士となった後にも役立つ力であると感じます。

最後になりましたが、私を温かく迎え入れ成長させてくださった One Asia Lawyersの皆様、渡航の準備をサポートしてくださった神戸大学法科大学院の先生方、教務グループの皆様、その他この旅を通じ出会いお世話になったすべての皆様に、この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。